

# みんなで作ろう！ セーフコミュニティちちぶ

## 高齢者の安全対策委員会 活動報告



発表者：委員長 多比羅幸男  
所属：秩父市老人クラブ連合会

# 高齢者の安全対策委員会設置の背景

①秩父市では、65歳以上の高齢者の増加が著しく、高齢化率が27パーセントを超えている。将来的にも高齢化が進むことが予想される。

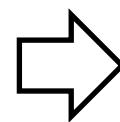


図1  
図2

②単身高齢者が増加している。

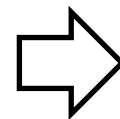


図2

③高齢になるほど救急搬送発生率が高い。

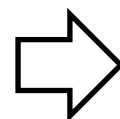


図3

④特に、「転倒・転落」により救急搬送されるケースが多い。



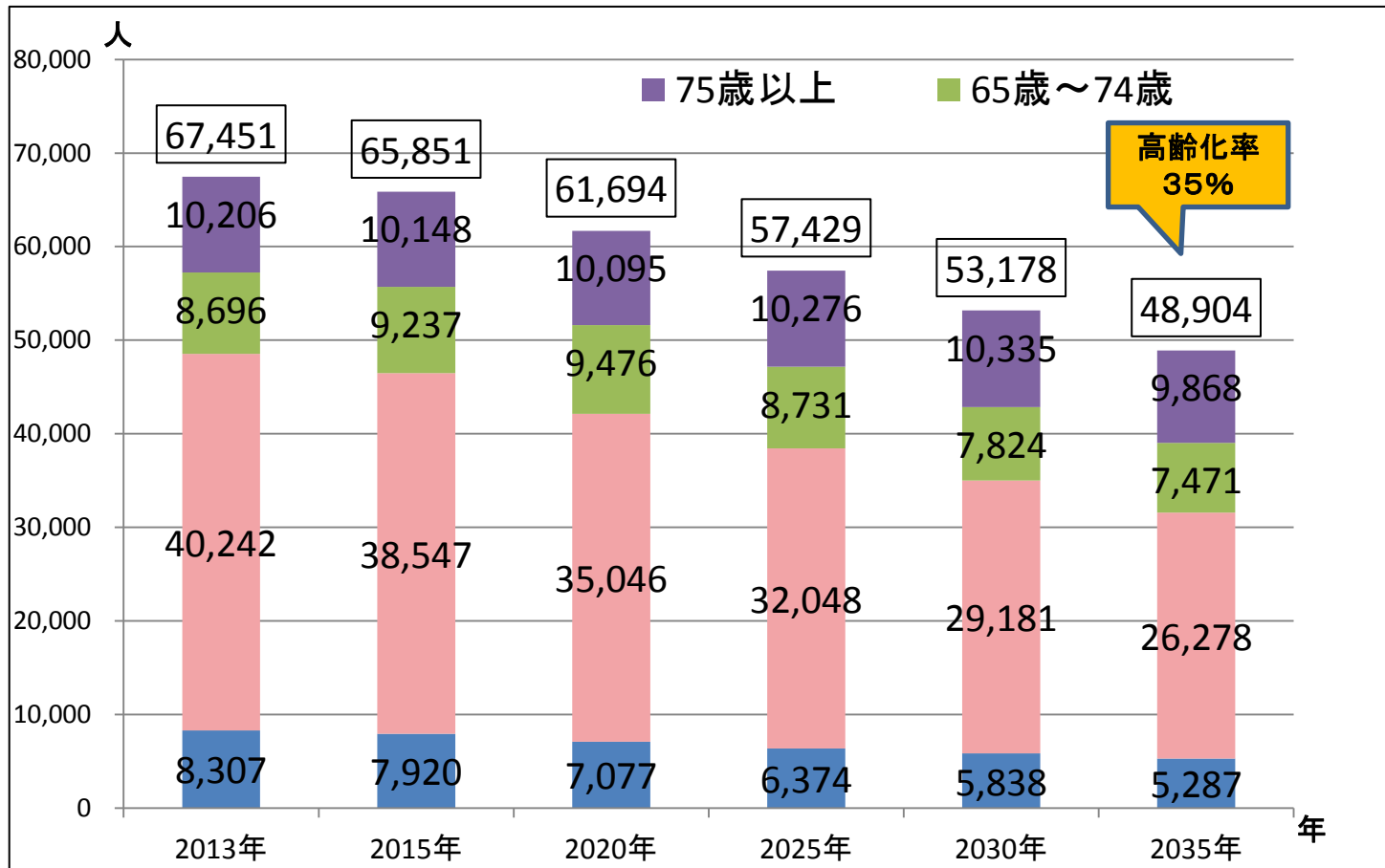
図4

# 対策委員会設置の背景 ①

## 人口の減少と超高齢化社会の到来

図1

### 秩父市の将来推計人口

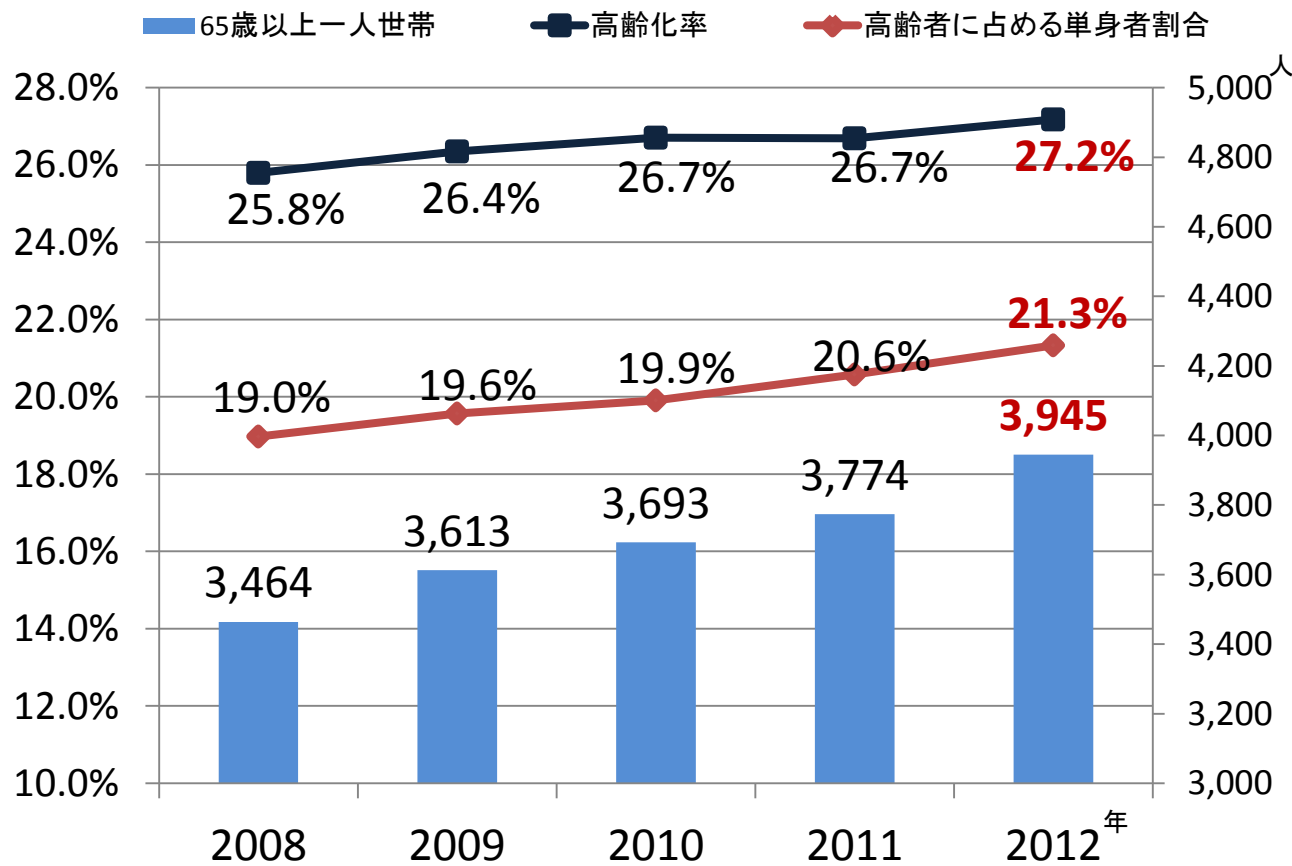


出典：秩父市地域政策課

# 対策委員会設置の背景 ②

- ・65歳以上の高齢者の増加が著しい。
- ・高齢化率は27%を超えている。
- ・高齢者のうち単身者の割合は、21%以上

図2

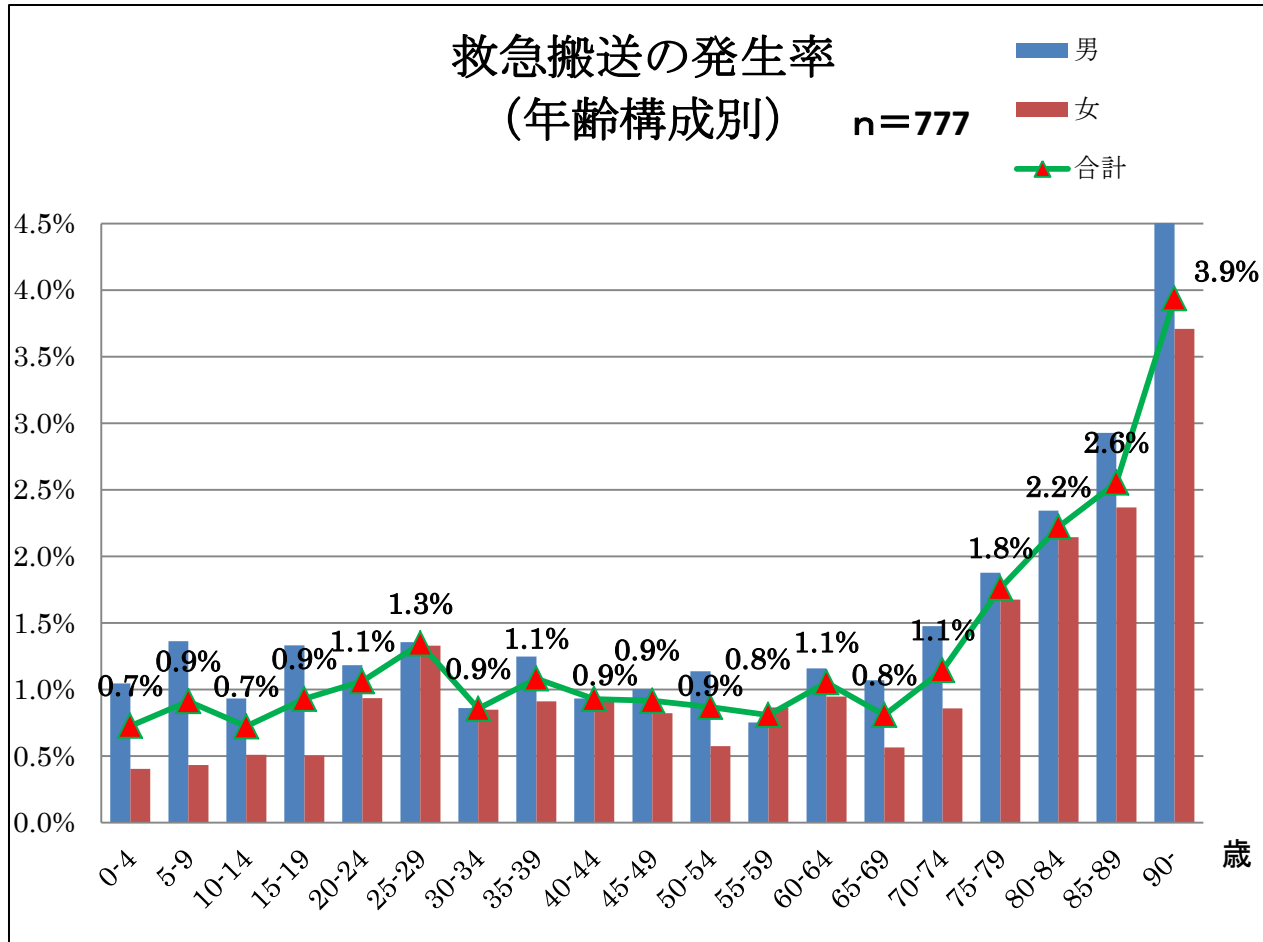


出典：秩父市高齢者介護課

# 対策委員会設置の背景 ③

- ・「救急搬送発生率」は、高齢になるほど高くなる傾向にある。
- ・75歳以上では発生率が特に高い。

図3

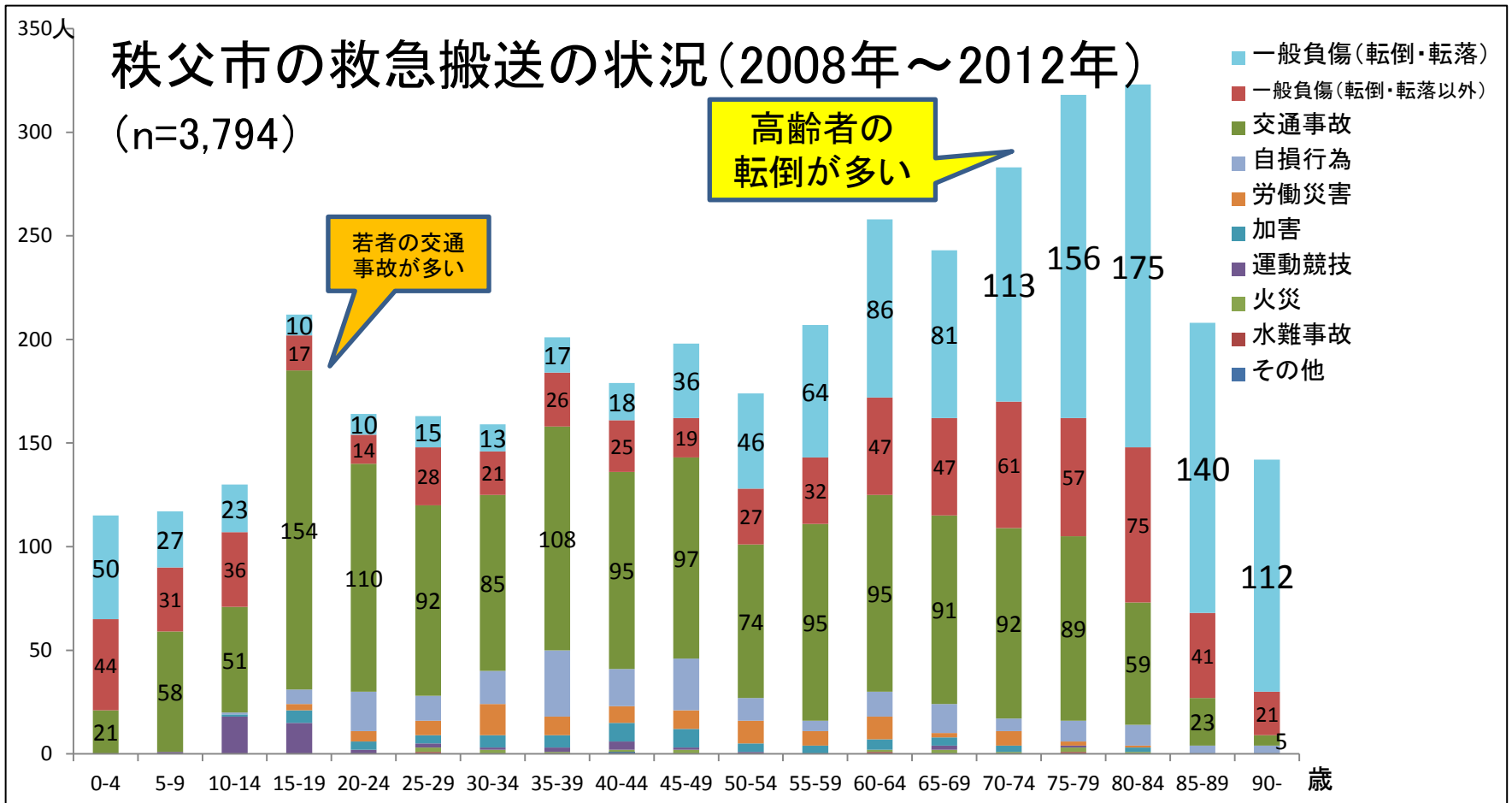


出典:救急搬送データ(2012年)

# 対策委員会設置の背景 ④

- ・ 高齢になるほど搬送される件数が多い。
- ・ 「転倒・転落」により搬送されるケースが多くなっている。

図4



出典：救急搬送データ

# 高齢者の安全対策委員会の構成

区分	団体・組織名	委員数
住民組織等 (10)	秩父市老人クラブ連合会	2名
	秩父市在宅福祉員連合会	1名
	秩父市町会長協議会	2名
	秩父市民生委員・児童委員協議会	1名
	秩父市健康推進員連絡会	1名
	秩父市社会福祉事業団	1名
	秩父市社会福祉協議会	2名
行政機関 (5)	秩父市(社会福祉課、高齢者介護課、包括支援センター、公募職員)	5名

# 高齢者の安全対策委員会の経過

回数	開催日	主な会議内容
第1回	2013年 8月19日	セーフコミュニティの概要説明
第2回	2013年 9月27日	第1回ワークショップ(主観的な課題の抽出)
第3回	2013年10月31日	第2回ワークショップ(データから見る課題の議論)
第4回	2013年12月17日	重点課題の選定、方向性の検討
第5回	2014年 1月21日	重点課題の選定、方向性の検討、対象の設定、取組みの議論
第6回	2014年 3月25日	重点課題に対する取組みの検討



# 秩父市の現状（地域診断の結果）

## 【ワークショップによる主観的な意見】

- ・老人の自転車のフラツキ走行
- ・老人の道路横断の手前勝手な渡り方
- ・思ったほど足が上がっていない。
- ・シルバーカーの高齢者が下を向いて、赤信号に気づかず、渡ってしまった。
- ・町会のスポーツサークルなどに参加している方は、同じ方ばかり。
- ・交通ルールを守らない高齢者が多い。

## 【データからみた客観的な危険】

- ・高齢化率が高い。
- ・一人暮らしの高齢者世帯が増加している。
- ・高齢者の救急搬送発生率が高い。
- ・高齢者の救急搬送は、中等症以上の割合が高くなる。
- ・高齢者の救急搬送の要因は、「転倒」・「転落」が多数を占めており、特に 自宅での件数が多い。
- ・転倒について不安と感じている高齢者が多い。
- ・支援を求めている高齢者が多い。

図1、2

図2

図3、4

図5

図6、7

表1-1、1-2

図8-1、8-2

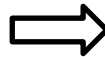
表2

# 地域診断① ワークショップでの検討

ワークショップを2回開催し、主観的な危険及びデータから見た危険について意見を出し合いました。



各委員が数多くの意見を出し合いました。

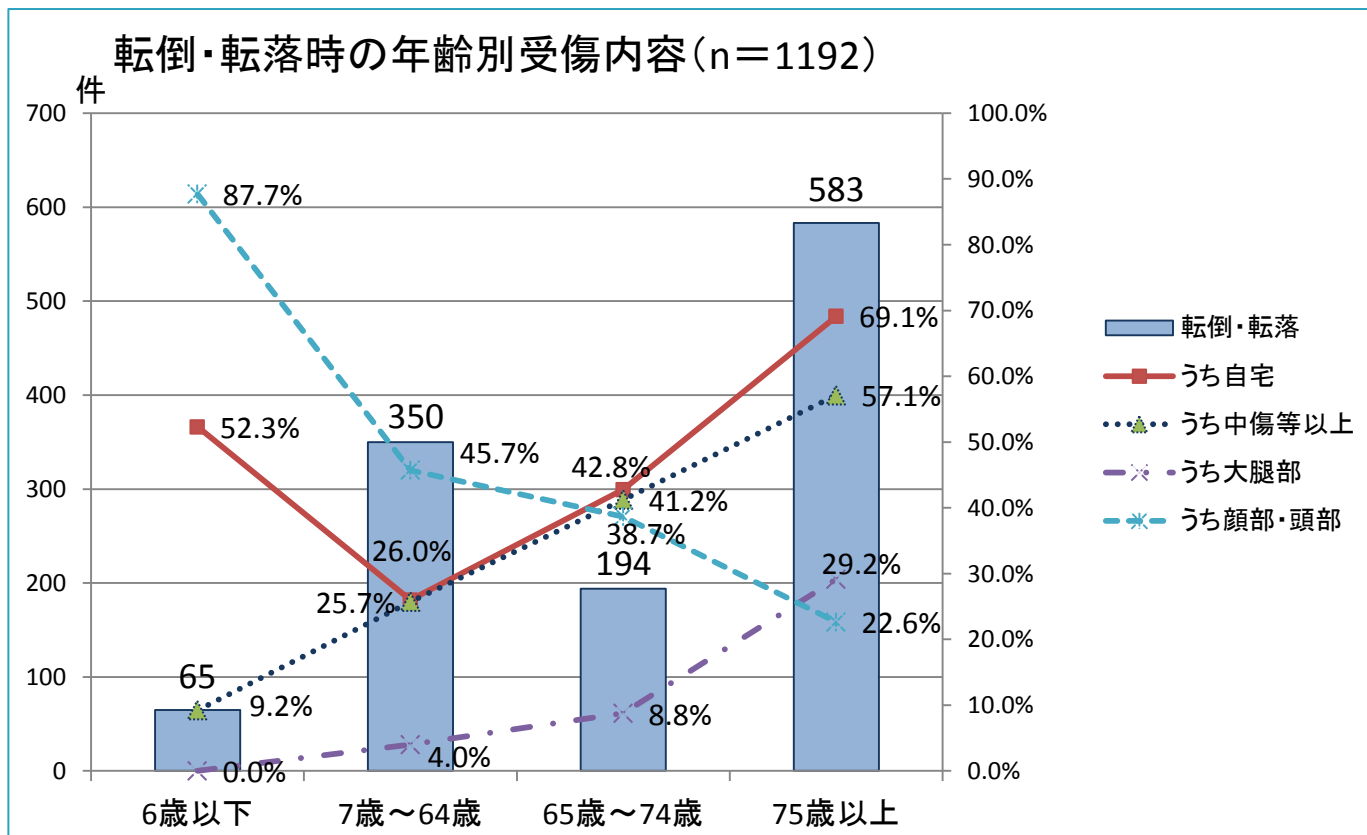


ワークショップでの検討事項を他の委員会の皆さんに発表し、情報共有しました。

# 地域診断② データから見た客観的な危険(1)

- ・「転倒・転落」による搬送では、65歳以上の高齢者が搬送されるケースが多い
- ・75歳以上の高齢者では、自宅で大腿部に受傷する事例が多く、また重症化する割合が高い。

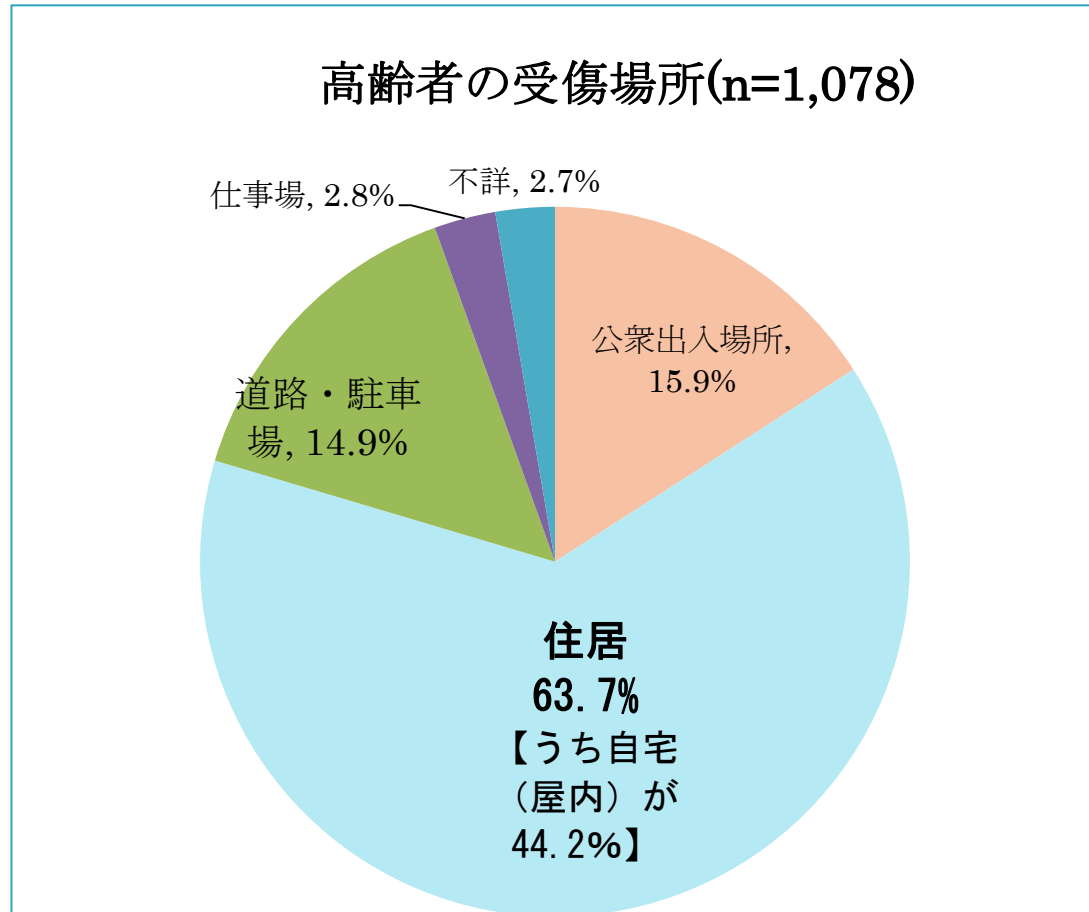
図5



# データから見た客観的な危険(2)

・受傷場所は、「住居」が6割以上、特に、「自宅(屋内)」が多い。

図6

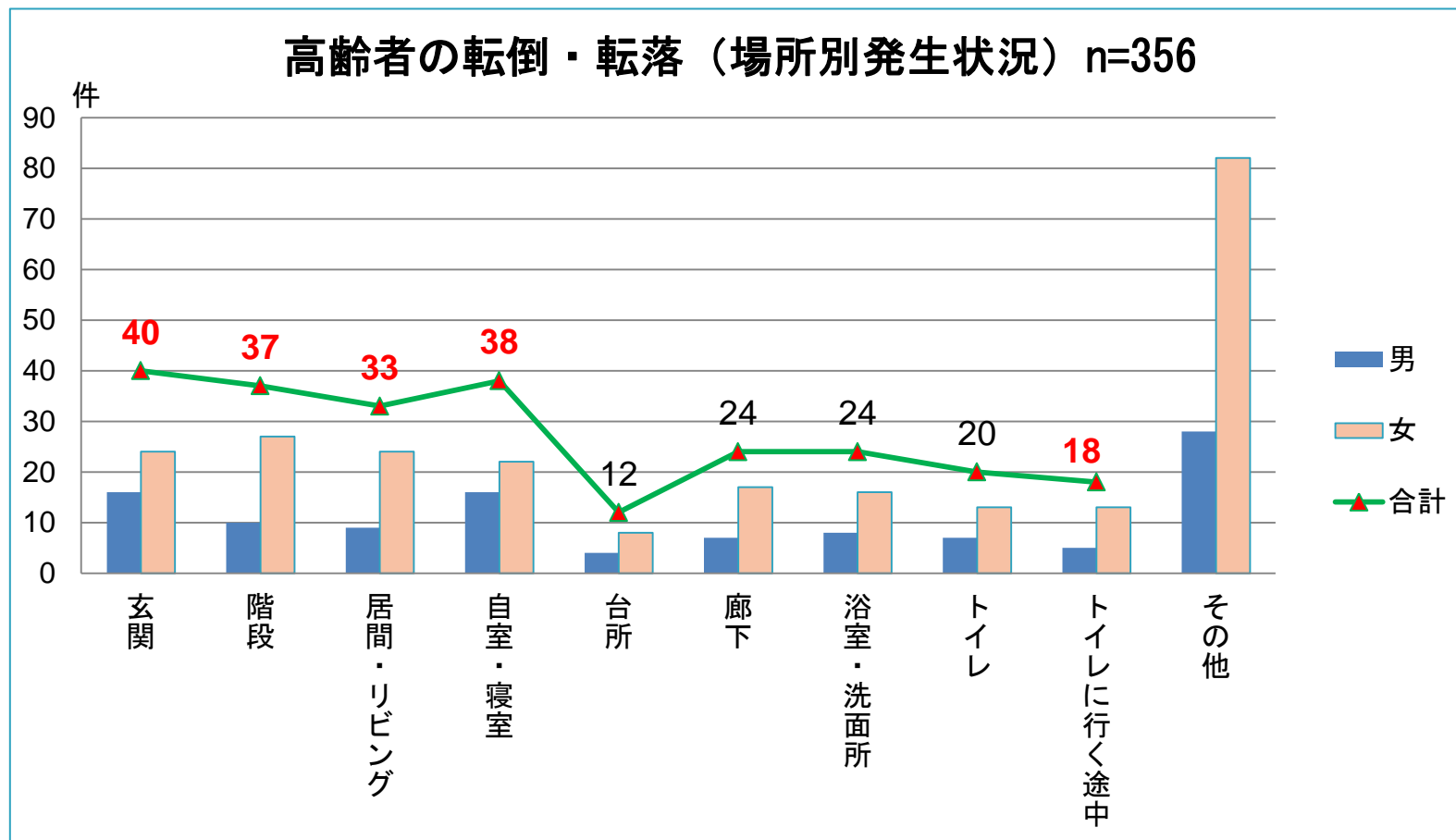


出典:救急搬送データ(2008年~2012年)

# データから見た客観的な危険(3)

- ・自宅(屋内)で転倒・転落した場所は、「玄関」が最も多い。
- ・「階段」、「居間・リビング」、「自室・寝室」、「トイレ(または行く途中)」も多い。

図7



出典：救搬送データ(2008年～2012年)

# データから見た客観的な危険(4)

- ・「1年以内に転倒したことがある」高齢者は22%
- ・「転倒に対する不安が大きい」と答えた人が47%

図8-1

1年以内に転倒したことがある  
n=8,542人

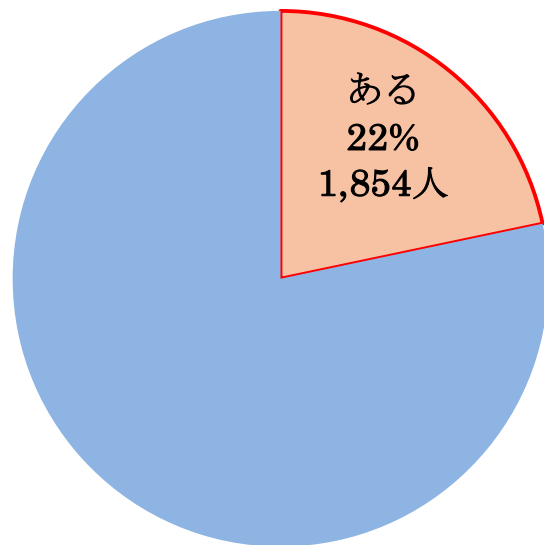
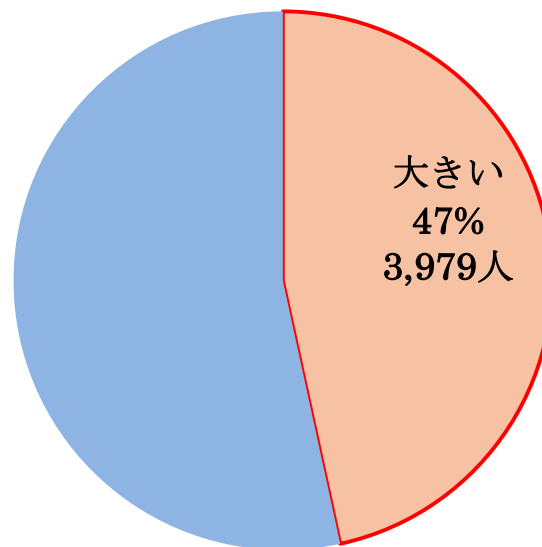


図8-2

転倒に対する不安が大きい  
n=8,542人



出典：2011年介護保険二次予防事業対象者把握調査

# データから見た客観的な危険(5)

- ・秩父市では、高齢者を対象に、生活機能の維持・向上を図り、各種講座を開催
- ・受講者は6年間で2000人を超えていますが、高齢者のごく一部しかカバーできていない。

## ○お達者塾参加状況（人）

表1-1

	医師の講話	歌や軽運動	栄養・口腔改善	うつ・認知予防	計
2007年		78	81	82	159
2008年	151	125	57		333
2009年	130	131	37		168
2010年	29	151	62		242
2011年	49	91	85		225
2012年	35	33		29	68
計	394	609	322	111	1195

## ○介護予防普及啓発事業参加状況(人)

表1-2

	秩父		吉田		大滝・荒川		計	
	回数	参加人数	回数	参加人数	回数	参加人数	回数	参加人数
2010年	13	423	3	75	2	76	18	574
2011年	17	483	6	216	0	0	23	699
2012年	20	761	8	215	3	83	31	1059

# データから見た客観的な危険(6)

表2

地域で安心して暮らし続けるための支援活動として期待されていることは、「ひとり暮らし等の高齢者に対する支援」

(n=1158人)

項目	人数	%
ひとり暮らし等の高齢者世帯や障がいのある人への声かけや話し相手	692	59.8
介護が必要な人や障がいのある人の短時間の預かり	263	22.7
乳幼児の短時間の預かり	199	17.2
子育てサロンなど子育て家庭の相談・仲間づくりの活動	247	21.3
高齢者が集える「ほっとサロン」などの活動	333	28.8
ひとり暮らし等の高齢者世帯や障がいのある人の買い物、ごみ出し等の手助け	459	39.6
ねたきり高齢者や障がいのある人のお世話	279	24.1
ひとり暮らし等の高齢者世帯や障がいのある人の庭の手入れや簡単な日曜大工	312	26.9
ひとり暮らし等の高齢者世帯や障がいのある人の緊急時の連絡・応対	530	45.8
福祉施設での手伝いや話し相手	218	18.8



# 地域診断による課題の整理

課題1 高齢者の救急搬送の要因は、「転倒・転落」が多数を占めており、特に自宅での件数が多い。

課題2 転倒について不安を感じている高齢者が多い。

課題3 ひとり暮らしの高齢者世帯が増加している。

課題4 支援を求めている高齢者が多い。

課題5 交通ルールを守れない高齢者が多い。

方向性  
1

方向性  
2

方向性  
3

図3

図4

図5

図6

図7

表1-1

表1-2

図8-1

図8-2

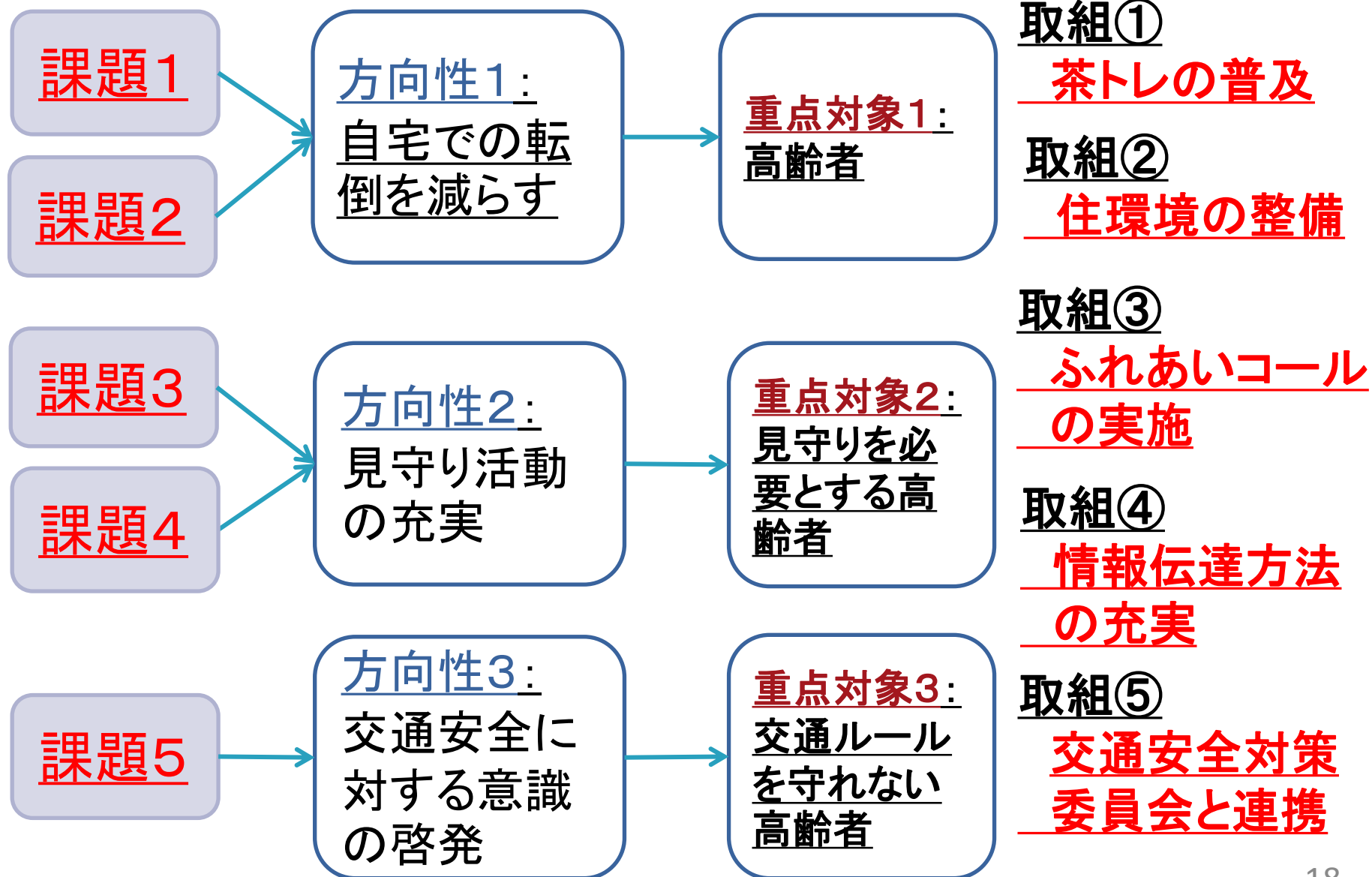
図1

図2

表2

データ  
不足

# 課題、方向性、重点対象、取組の整理



# 高齢者を対象に自宅での転倒を減らす

新規

## ・取り組み① 茶トレの普及

- ・自宅に居ながら少しの時間で取り組める「ちちぶお茶のみ体操(通称茶トレ)」を普及させる。
- ・教室参加型では、高齢者すべてをカバーできない。

・転倒・転落により受傷する高齢者が多い。



・身体機能の低下を予防  
・転倒・転落のリスクを軽減



・教室参加型では、高齢者全体をカバーできない。



普及方法:

- ・茶トレ講習会を開催
- ・チラシの配布
- ・ホームページでの広報

・茶トレの普及で、高齢者全体をカバー

# 高齢者を対象に自宅での転倒を減らす

新規

## ・取り組み② 住環境の整備

- ・自宅内での危険箇所を高齢者に認識してもらい、住環境を整備することによって、転倒・転落リスクの軽減を図る。

・自宅(屋内)での負傷が多い



～自宅内の  
転倒・転落多発箇所～  
・玄関           ・階段  
・居間           ・寝室  
・トイレ



・危険箇所を認識し、住環境を整備(整理整頓)することにより、転倒・転落リスクの軽減を図る。

～改善例～

- ・電気コードの固定
- ・新聞、雑誌を放置しない
- ・階段や廊下に荷物を置かない
- ・階段に滑り止め設置

実施方法:

- ・啓発チラシの配布
- ・高齢者世帯訪問時に啓発
- ・各種会合での説明

# 見守りを必要とする高齢者を対象に見守り活動の充実

改善

## ・取り組み③ ふれあいコールの実施

- ・民生委員、在宅福祉員、隣組などで、普段から見守り活動をする。
- ・普段と違う違和感を感じたら民生委員や市役所に連絡(コール)する。

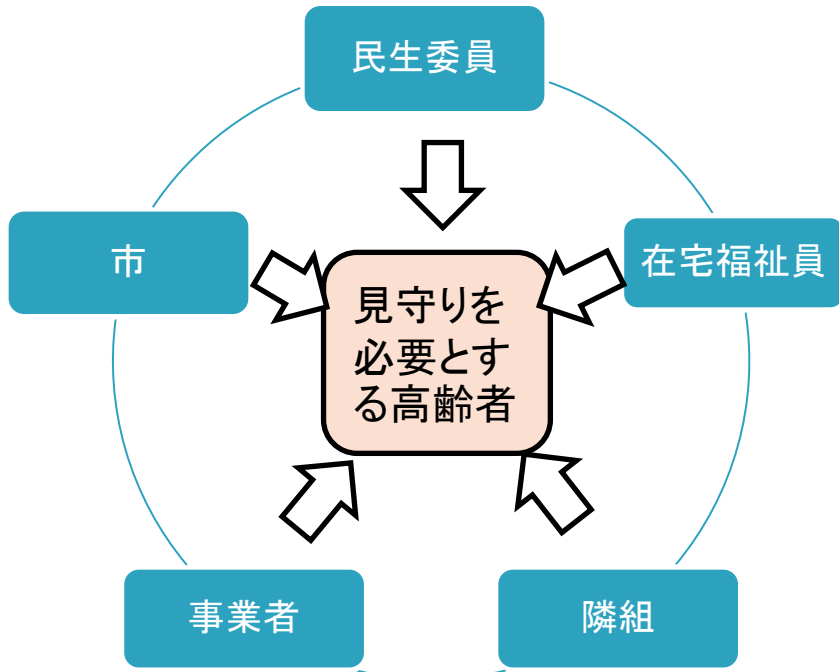
現在

改善

- ・単身高齢者だけで約4000人
- ・ふれあいコールの対象となっている高齢者 約1750人



- ・見守り対象者を増やす
- ・見守り参加者も拡大



すぐに対応！



# 見守りを必要とする高齢者を対象に見守り活動の充実

## ・取り組み④

改善

### 情報伝達方法の充実

「安心・安全メール」への登録、防災無線など、緊急時・災害時の情報伝達方法の充実を図る。

現在

- ・安心・安全メール登録者数  
約2500人(60歳以上)
- ・防災無線が聞こえづらい



改善

- ・安心・安全メールの登録者数の増加、  
利用促進
- ・防災無線内容確認ダイヤルの周知

緊急時・災害時の  
情報入手に不安を  
感じている高齢者  
が多い。



携帯電話やパソコンを  
使用している高齢者

携帯電話やパソコンを  
使用していない高齢者



安心・安全メールの利用促進

防災無線による伝達  
防災無線内容確認ダイヤル  
(通称 **かくにんくん**) の周知

見守り活動参加  
者からの連絡

## 交通安全意識の啓蒙

## ・取り組み⑤ タクシードライバーからの情報収集

- ・「交通ルールを守れない高齢者が多い」という課題に対して、データが不足
- ・交通安全対策委員会と連携してデータを収集し、高齢者の意識を改善する取り組みを実施する。

委員の意見として、  
高齢者は交通マナーを守れていない  
という意見が多い



高齢者の交通マナー  
が守れていないという  
明確なデータはない

高齢者自身には交  
通マナーが悪いと  
いう自覚はない

交通安全対策委員会と連携してデータを収集する。  
・タクシードライバーなどプロの視点から見た高齢者の交通マナーについて、アンケートによりデータ収集



高齢者の安全対策委員会で、講習会等を開催する。

## 取組

### 取組 1

対策:茶トレの普及

実施・関係者:地域包括支援センター、民生委員、健康推進員、在宅福祉員

実施内容:老人クラブやいきいき教室において、転倒予防の体操、ちちぶお茶のみ体操(通称茶トレ)を実施し、普及させる

改善提案:新規取り組み



## 成果

### 成果 1

短期的な成果:

# 今後検討

中期的な成果:

長期的な成果:



### 取組 2

対策:住環境の整備の啓発

実施・関係者:地域包括支援センター民生委員、健康推進員、在宅福祉員

実施内容:高齢者宅訪問時に、住居内の危険箇所の説明、室内の整理整頓について

改善提案:新規取り組み



### 成果 2

短期的な成果:

# 今後検討

中期的な成果:

長期的な成果:



### 取組 3

対策:ふれあいコール等の実施

実施・関係者:町会、民生委員、在宅福祉員、社会福祉協議会秩父市、

実施内容:単身高齢者を対象に、民生委員を中心に、町会、隣組などが、見守り活動。洗濯物、新聞、郵便物などをチェック。回覧版の受け渡しの際の声掛け実施。

改善提案:単身高齢者だけでも約4000人いる。ふれあいコールの対象となっている高齢者は約1750人。見守り対象を増加させる

### 成果 3

短期的な成果:

# 今後検討

中期的な成果:

長期的な成果:



## 取組

### 取組 4

対策: 情報伝達方法の充実

実施・関係者: 民生委員、町会、包括支援センター、秩父市

実施内容: 防災無線の内容を確認できるダイヤル「かくにんくん」を市民に周知する

改善提案: 安心安全メールの登録者を増加させる。防災無線内容確認ダイヤルを周知するなど改善を図る。



## 成果

### 成果 4

短期的な成果:

# 今後検討

中期的な成果

長期的な成果:



### 取組 5

対策: 高齢者の交通マナー等に関するデータの収集  
(交通安全対策委員会と連携)  
高齢者の対策委員会で講習会の開催

実施・関係者: 高齢者の安全対策委員会委員、交通安全対策委員会委員

実施内容: 高齢者の交通マナー等に関するデータを交通安全対策委員会と連携して収集し、高齢者の安全対策委員会にフィードバックし、具体的取り組みについて検討する。

改善提案: 新規取り組み



### 成果 5

短期的な成果:

# 今後検討

中期的な成果:

長期的な成果:



# 現時点での問題点・困難な点

## 1. 取り組み①

### <普及方法>

各種会合に参加しないで、閉じこもりがちになっている高齢者は啓発チラシなどにも関心を示さない可能性がある。いかにして関心をもってもらうか？

## 2. 今後の方向性

- ・成果の指標については、今後検討
- ・交通安全対策委員会との連携してデータ収集



ありがとうございました！